

## 人口減少地域における文化継承モデルの可能性の探究

少子高齢化や人口減少が進む地域社会では、経済的な活性化に加え、地域に根付く文化や価値観をどのように次世代へつないでいくかが、重要なテーマとなっている。これまでの地域づくりは人口増加を前提とする考え方が中心であったが、現状との乖離がある。本研究では、高知県香美市でのフィールドワークを通じて、地域に暮らす人々の思いや文化に触れながら、人口減少を前提とした持続可能な地域のあり方について探究した。

そこで「人口減少社会において、文化が『残る』とはどのような状態なのか」を問いとして設定し、その実現に向けた可能性を探ることを目的とする。

### 1. 個人の問いとフィールドワークを通じた気づき

#### 1.1 個人の問いの共有

本研究では、学生と社会人それぞれの立場や経験を踏まえた「個人の問い」を共有しながら活動が進められた。「地域はどのように生きていけるのか」「人はなぜその土地に住み続けるのか」といった問いは、統計的指標や数値のみでは把握しきれない地域の価値に目を向けるきっかけとなった。

#### 1.2 フィールドワークによる認識の変化

香美市でのヒアリングを通して、人口減少は必ずしも否定的に捉えるべきものではなく、地域の価値を見つめ直す前提条件として考えることもできるのではないかという気づきが得られた。人口の増加を目指すだけでなく、地域に息づく文化や人の思いをどのように受け継いでいくかが重要であると示唆された。

### 2. フィールドワークから見えてきた希望と課題

#### 2.1 地域の中に見られた希望

ヒアリング調査を通じて、地域には人口規模に必ずしも依存しない価値が存在していることが明らかになった。自然や歴史、文化に誇りを持ちながら暮らす人々の姿や、顔の見える距離感の中で築かれている人間関係、小規模ながらも信頼を基盤としたコミュニティの存在は、地域特有の魅力として位置づけることができる。

また、日々の暮らしの中に文化や自然が溶け込んでいる様子からは、外から見ただけでは分かりにくい豊かさの存在が示唆された。これらの要素は、人口の増加や経済的な規模拡大だけを目指す地域づくりとは異なる視点を与えてくれるものであり、「人が少なくても豊かに暮らせる社会」の可能性を示している。

#### 2.2 不安要素と現実的な課題

一方で、フィールドワークを通じて若年層の不在や文化等の継承者不足といった課題も浮かび上がった。地域に受け継がれてきた文化や活動を大切に思う気持ちがあっても、特定の個人に役割や負担が集中している状況では、継続していくことが難しくなる可能性がある。

さらに、地域外から関心を寄せる人が存在しても、その関心を一過性のものに終わらせず、継続的な関わりへとつなげる仕組みが十分に整っていない点も課題として挙げられる。これらの不安要素は、地域の魅力があっても、それを将来にわたって維持していくための仕組みが不可欠であることを示している。

### 3. 文化をつなぐ仕組みとしてのビジネスモデル

#### 3.1 サブスクリプション型モデルの可能性

こうした課題を踏まえ、本研究では文化継承のあり方を検証することを目的として、実際に文化の継承活動を行っている事例に着目した。地域で文化継承活動を実践する主体を「文化の守り手」と定義し、これらを支援・企画する立場を我々として位置づける。その上で、文化の守り手と我々がどのような関係を築きながら、文化を次世代へつないでいくのかについて考察を行った。

検討の過程では、文化体験や情報発信を通じて共感者と緩やかにつながり続けるサブスクリプション型の仕組みが有効な枠組みとなり得る可能性が示唆された。このモデルは、単発的な支援にとどまらず、文化の守り手と共感者との継続的な関係性を育む点に特徴があり、文化継承を長期的な視点で捉える一つの方法として位置づけられる。

### 3.2 守り手の声から得られた示唆

文化の守り手へのヒアリングからは、「無理のない関わり方であること」や「自分たちの想いや背景がきちんと伝わること」が大切であるという声が聞かれた。文化の継承活動は、強い負担感や義務感のもとで行われるのではなく、関わる人が納得しながら続けられる形であることの必要性が指摘された。

一方で、実際の活動現場では負担が一部の守り手に集中している実態も確認され、継続的な活動のためには、負担を和らげる工夫が早い段階で求められていることも明らかになった。こうした声を踏まえると、文化継承を支える仕組みには、経済的な側面だけでなく、文化の守り手と私たち双方が無理なく関わり続けられる関係性や役割分担を丁寧に設計していく視点が重要であると示唆された。

本研究では、人口減少社会における文化継承のあり方について探究した。文化が「残る」とは、単に保存されることではなく、人との関係性の中で大切に受け継がれていく状態であると定義し、そのためには、文化の守り手と共感者をつなぐ持続的な仕組みが求められる。サブスクリプション型モデルは、その一つの可能性を示すものといえる。今後は、地域ごとの特性に応じた工夫や、守り手の負担を抑えながら続けていける方法について、さらに検討していく必要がある。

以 上